



平成30年9月19日

海上保安庁

JICA 研修員が大分県別府港で海図作製のための測量実習をします ～アジア・オセアニア4ヶ国への国際貢献～

海図作製技術の習得を目的としてアジア・オセアニア4カ国から来日している6名の JICA((独)国際協力機構)研修員は、9月26日から10月26日にかけての約1カ月間、大分県別府港で測量を実習します。海図を作製するためには、水深だけでなく、海岸の形状や灯台の位置等、陸海のさまざまな情報を多様な測量手法によって明らかにする必要があります。この実習で研修員は、実際の測量現場を経験し、開講以来の約3ヶ月間に講義で教わった理論・技術の生かし方を、その身に体験します。

海図作製のための水路測量技術の習得のため、各国の関係機関の水路測量技術者からなる JICA 研修員(4カ国6名)が、9月26日から10月26日にかけて、大分県別府港で実践形式の水路測量実習を行います。出身国の異なる研修員が、チームワークを大切に全員で力を合わせ、陸上・海上を問わず、海図作製に向けたさまざまな測量に取り組みます(別添1参照)。

また、実習期間中には、別府市長表敬訪問、大分海上保安部訪問や立命館アジア太平洋大学の学生との交流会も実施予定です。

○実習日程

平成30年9月26日(水)から10月26日(金) (うち実習日数27日)

【実習期間中の主な予定】

9/26(水) 14:45~15:00	大分海上保安部訪問
16:30~16:50	別府市長表敬訪問
9/29(土)~10/9(火)	陸上での測量実習
10/3(水) 10:45~13:00	立命館アジア太平洋大学訪問
10/12(金)~10/22(月)	海上での測量実習

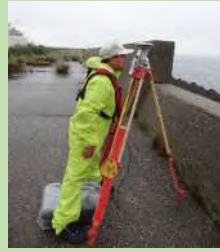
※上記の予定は天候等により変更の可能性があります。

陸上での測量

海図に掲載する海岸線や、航海上の針路目標となる灯台等の位置を明らかにします。

原点測量

基準となる点の位置(緯度経度・標高)をGPS等のGNSS(全球測位衛星システム)により測定します。この測量で決定された基準点の位置を基に、多角測量を行います。



多角測量

原点測量によって位置が明らかになった点を基準として、そこからの距離と角度を測定をすることにより、航海上の目標になりうる灯台等の位置を決定します。



岸線測量

海岸線やその付近の地物(岩や人工物等)の位置を測定します。本実習では、GNSSを用いた測位機器による測量も併せて行います。



海上での測量

海底の地形、海図に記載する水深を明らかにします。

測 深

船を使用して海域の水深を明らかにします。本実習では、GNSSを用いた船位測定と陸上から海上の船の位置を測定して測線への誘導を行い、船に取り付けた測深機により水深を測定します。



サイドスキャンソナー

船から観測機器を曳航し、海底の地形を明らかにします。沈没した船や岩礁など、まるで写真をとるような画像が取得できます。

